

2023_1002「雲から姿を現す中秋の名月（2）（動画）」日々の理科 3343号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

日本人は古来から「月を愛（め）でる」という習慣がありました。特に中秋の名月（旧暦8月15日の月）には、お供え物をして月が昇ってくるのを待つという催しがありました。しかし、中秋の日に満月となるとは限らず、天文学的には前後2日程度のずれがあります。理論上の満月の月齢は、計算上は1朔望月（朔＝新月から、次の朔までの平均日数）の2分の1である月齢約14.75日のはずですが、実際は月の公転速度（正確には公転角速度）が一定ではないので、満月の月齢が13.8～15.8と大きく変動するためです。

しかし今年の中秋は、見事に満月と一致しました。それでも雲には勝てません。月見の日に雲で月が見えないことを「無月」といいます。今年の中秋では、東京は無月のところが多かったようです。ちなみに中秋は年に関係なく、かならず「仏滅」になります。

北軽井沢でも雲が多かったのですが、一度雲に隠れた月が再び現れる一瞬を動画で撮影しました。徐々に表れる月面の模様も美しいです。日周運動（地球の自転）によって、月が左下から右上（南）に移動する様子もわかります。

(2023年9月29日／北軽井沢)

